

工学研究科学位論文評価基準

工学研究科においては、ディプロマポリシーに基づき、学位論文を以下の基準により総合的に評価する。

修士論文

口頭試問などにより、修士論文研究を通して以下を身に付けていることを確認する。

- 研究者・技術者として活躍できる工学的専門技術力を身に付けている。
- 研究課題を体験し、研究・技術開発に適応できる能力を身に付けている。

修士論文について以下を評価する。

- 過去の関連研究の調査が記され、研究の位置づけおよび新規性が記されている。
- 研究の方法が具体的に記されている。
- 研究の結果が理解できるように記され、結果に対する考察が論理的に記されている。
- 結論として主要な知見がまとめられている。

博士論文

口頭試問などにより、博士論文研究を通して以下を身に付けていることを確認する。

- 研究能力の基礎となる高度な工学的専門技術力を身に付けている。
- 自立して研究活動を行うのに必要な高度な研究能力を身に付けている。

博士論文について以下を評価する。

- 過去の関連研究の調査結果が十分に記され、研究の位置づけおよび新規性が十分に記されている。
- 研究の方法が具体的に記されている。
- 研究の結果が理解できるように記され、結果に対する考察が論理的で説得力を有するよう記されている。
- 結論として主要な知見がまとめられている。
- 研究結果が当該分野の研究の進展に寄与する内容を含んでいる。
- 研究結果の大部分が学術誌等に公開されている。